

なら、今頑張る。数年間苦しいかもしれんけど頑張

る方が適切な判断

語り手 馬場俊亮（高校八期生 レストラン） 聞き手 大塚美月

リーダーとして生きてきた学生時代

―最初に詳細を見せていただいた時に国際関係学部ってすごいと思って
みてました。

そうなんか。でも確かにうちの学年の時も多かったかも。でも、全然
全然。俺立守のテストとで赤点取ったこともあったし。

―何の教科で取られたんですか

数Ⅲで取ったね。俺理系やったから。高校まで。

―理系の人は結構勉強が大変で死にかけてるって聞きます

無事死んだ。俺の時もある程度成績はないと国関（国際関係学部）に
はいけへんかった。

―その時ってGL（グローバルコース）ってありましたか。

なかった。俺の一個下からできてた。だから文系理系。でしかも、高
校三年生で別れたの。普通は高校二年生で分かれるの。その頃の立守だ
と私が卒業したのが二〇一六年の三月。十年くらい前。その時は文理融
合学習っていうのをすごく推してた。今は方向性変わったんかなと思う
んやけど、文系に行く子も数学的な知識をつけましようとか、理科の授
業を受けましようとかいう方針があつて、外部受験するフロンティアサ
イエンスコースもあった。

―勉強大変そうです。すごく。

一回二九点。数Ⅲで。受け取った瞬間にこんな数字見たことないと思
って明確に覚えてる。

―誰先生だったんですか。

中山先生っていう先生が昔いて自分の担任でもあった。今知ってる先
生とかだったら曾根先生とか。曾根先生は私の学年の学年主任、部活の
顧問でもあったし。あと、この企画をしてはる田辺先生は生徒会の顧
問。だから三年間か二年間はがつり関わってました。それでいうと俺
の経歴を話しておいた方がいいのかなと思うんだけど結構リーダー系を
することが多くて、立守の中学校の四期生やつたんやけど四代目の生徒
会長で、高校八期生の生徒会長。吹奏楽部が副部長。そう言った意味で
リーダー系の経験が多かった。曾根先生も、学年主任やし、その時の代表
が自分みたいな感じやったからずっと連絡してるみたいな感じ。修正し
ときますって言うって。あと、文化祭が好きやったから文実長（文化祭実
行委員会）を高校二年生の時に。みたいなことをして結構アクティブ
に動いてた方ですね。

―何で生徒会長になりたいって思ったんですか、

自分が向いてると思ったから。もつと遡ると小学生ぐらいからずっと
リーダーしてて小学校も児童会長。四、五、六年生は運動会があつてそ
れの応援団のサブリーダー。その前から三歳から二〇歳までピアノして
てその関係で吹部に入った。三歳からピアノのステージに立ってたりと
か、普通に発表会とか。だから全然怖くなかった。例えば失敗しても何
とかやり切る。演奏が止まっちゃっても冷静に間違えたと思つてもう一
回やろうって感じでやり直しちゃうみたいな感じで自然と積んでいて、
その先に自分人前で話すのも得意な方だから、俺がリーダーの方が解決
するくねっていう感じで、生徒会選挙とかをやつて投票で選んでもらつ

た。大学生なっても、立命館の学園祭で衣笠の代表をして、基本的にずっと学生時代リーダーを経験してたかな。

―昔から結構そう言う経験多かったですか？

多かった。中学一年生の時、学年で文化祭準備するやん。一年生がふざけすぎてめっちゃ怒られて。その時HR委員長やって中学一年生の時。その学年の主任と、別の生徒会の顧問の先生から「一年生やる気ないなら文化祭させませんよ」みたいなことを言われた。その時に「すみませんやうしてください。具体的にはこうやってやります」って言うってたりとかしてた。そういう感じで追い込まれて人前で話すことも多かった。大体当てられるやろうなつてのがわかるやん。自分がそういう役職なんもあるし。たとえば説明聞きます。誰かじゃあ感想ありますかって聞かれても絶対誰も言わんから。だから、考えといたら楽やなと思つて発表聞きながら言うとしたらこれ言おうみたいなのを考えてた。

試行錯誤の上の成功

あと、高校の時にプロジェクションマッピングを作つて、立守で。

―プロジェクションマッピング？

最近やつてたでしょ。十一年前の二〇一四年と二〇一五年に初めて作つてしばらく途絶えて。ちょうど二年前くらいに立守生徒会から、ちょっとプロジェクションマッピングをしたいという声が出てるんですけど十年前どうやってたんですかって聞かれて説明しにいった。

―ちようど昨日くらいに友達とその話をしたので自慢しておきます。

自慢しといてください。初代は私です。全部一人でやってみました。教室にプロジェクターついてると思うんですけど、プロジェクター二枚繋げたらこの校舎全体に映るのがわかったから自分で調整して。パワポで

アニメーションあるやん。アニメーションで窓を動かしたりとか、色を変えたりとか。図形で色変えたりとかして嵐の曲とか流したりとか。あと、もともと文化祭の後夜祭にバンド演奏があった。けど、このバンド演奏は私が高校二年生の時にやめましようつてなった。なぜなら高校三年生がほぼ出るのね。だから、中学二年生から高校二年生で素直に楽しめる人とそうでない人がいて。高三の人もバンド演奏を頑張るために自分のクラスを蔑ろにしちやうことがあつて、すごい反対とかがあつたけどやめましよう。完全には無くならんかったけど規模縮小された。

じゃあ、文化祭実行委員長の年やつたから高校三年生だけが楽しめる企画じゃダメなので、どうしよつかなつて考えて。その時にちようどニユースで東京デイズニールランドで新しいプロジェクションマッピングが始まりますって聞いて。かつ、中三の時に、家庭科準備でニューージョンドにいった人呼んでパーティーした時に雪の結晶上から下にアニメーションで降らすみたいなのを写した。これがここで見えるんやつたら校舎でもできるんじゃないのって思つて提案した。画像とかデザインとか。

―いろんなこと経験してるから結構充実してそうです。

めっちゃ充実してたと思う。在校生も楽しんでくれた。

―いいですね。後夜祭は外だったんですか。

そうそう。ちようどその時があすなろ祭が十周年かなんかやつて。ここでメッセージを残して最初に十年間の写真を振り返るっていうのを写したりとかして。結構色を変えるだけでも綺麗なんよ。これはまだリハールなんやけどまだ若干あつてないところがあるから動画編集得意な人にも手伝ってもらった。

―それはどこから投影してるんですか

中庭の石段あるやん。そこにプロジェクターを置いて。これは結構頑

張った。実際試写とかやってみてどうかなみたいなのをちよつとずつ変更加えていつて。当日は六時半くらいやから日が落ちきつてないからそんなに綺麗には見えへんかったんやけど、すごい盛り上がった。これを高二で作ってたかな。あと、自分吹奏楽部やったから高校の定演（定期演奏会）で市民ホールの上のところにプロジェクションマッピングできひんかなって実験してた。これは、あんまり目立たんくてちよつと上手くいかなかった。そういう失敗とかもありながら、高校生活を過ごしていました。

今の場所が全てではない。自分の活躍出来る場所を探して

ーちよつと話変わっちゃうんですけど、何で国際関係学部にしたんですか。結構今の話とかをお聞きしていると理系っぽいなと思ったんですけど、国際関係はあんまり理系ぽくない気がして。

んー、その時はちゃんと理由があつたんよな。俺もともと中学一年生からHR委員。あんまり同じ同級生と仲良くなれなかつた真面目すぎで。当時中学生の精神年齢に比べたらちよつと高すぎた。そんな感じで話が合わなくて、吹部の同期と仲良いみたいな感じ。けど、ニュージールランド研修に行くつてなつたときに、初めてくらいの海外で英語がそんなにできるわけでもないのに、英語でしゃべったりするのが楽しい。そこで日本で生きることが全てじゃないねなつて思つて。しかも海外行くと、俺は向こうの子にしゃべりにいったりとか楽器演奏とかして仲良くなつたんやけど、日本の学校で威張つてる人たちがすごいチキつてる（怖気付く・弱腰になる）。その環境にしか威張れへんのか、ダサイなと思つた。だからこそ自分の生きる場所は日本以外にも絶対にあるからそれを見つけれられるようにその環境を探すっていう意味でも日本以外の

ことを中心に学びたい。

ー日本つていうところに捉われないでと他のところを見ながら。

地球に生きてるのに何で日本だけで考えなあかんのか。あと、明確にその時点で学びたいことが決まつてなかつた。理系を選んだのも、高校三年生のときに、俺が何勉強したいのかの答えがまだなかつたから。そう思つた時にテーマパークつていいなつて気持ちがあるけどほんまにそうなんかわかんし、高校生のうちは理系でいいかなつて、選択の幅が広がるから。で、理系に行つたし。何なら俺、高校一年生の時は数学まだ得意やつた。数学のテストで百点取つた。得意やつてんけど高三なつてあーつて。

ー難易度が一気に上がりますもんね。文系は数Ⅱだけなんですけどそれでもやばいつてなつてます。テスト前とか必死にやつてます。

logとかやつた？

ーやりました。

社会人になつたら使うよ。意外とね出てくるよ。俺は使う。特に今業績管理とかしてるし、そつち系の分析とかもやるから。そう言つた意味で理系行つといてよかつたな。もともと理系好きやつたし。バランス人間やから。

ーそれつて結構大事ですね。偏つてしまうとできないこともあると思うので

数値分析とか分析作業が得意やけど音楽系もやつてたし、感性的な気持ちもわかる。かつ、それを繋げるようにリーダーシップが自分の一番の強みやからいろんな人の気持ちに立ちながら組織的に成果を上げるためのリーダーシップが得意つていうのがずつと中高からも続いてる。入つた理由の二つ目はリーダーシップを磨くために世界の人の環境を知つ

たほうがいいっていうのと、国際関係ってそもそもリーダーシップを発揮する機会が学生時代から多い。で一年生の終わりにやり切ったっていう経験ないなと思ったから、第二言語中国語を勉強して、北京にいった。

後半なって学園祭の代表を務めて八〇人くらい。国際関係学部の中でも世界経済を勉強する学習ゼミに入ったらゼミ長としてみんなで十万字の論文書いたりとかしてた。

—大学で何を学ばれたんですか？SDGsとかやられましたか？

やった。今若干会社でもSDGs系の関わってるし、あります。

—何を選ばれたんですか

経済。国際経済を選んだ。歴史的な背景も見て。その国の歴史には文化があるのに経済だけを学んでも意味がない。これが国際関係の考え方やから最初の一、二年は幅広く学びましょう。三年からは経済系、経営系とか法律とか秩序とかそれらの元の文化を知ることが大切だよっていう。

—ここまで広いとやっぱり大変でしたか。

いや、そんな大変ではない。英語の授業とかは厳しいかもしれん。帰国子女とかがいっぱいて周りに英語ができる人がいっぱいいる。英語はできないわってなって、一ヶ月くらい中国行ったら喋れるんじゃないかって思って、一年の最後に行った。実際に喋れるようになった。

—英語圏の留学はされたんですか。

しなかった。それは後悔してる。後悔してるけど、いかなかった理由が大学三年生で学園祭の代表になりました。何としてもこの組織を変えたいっていう気持ちがあつて、めっちゃ喧嘩しながらリーダーなって、ちゃんと成果が上がって。去年自分のやる前の二〇一七年の学園祭に比べて入場者数一・三倍上げて。この成果があるから今の会社に入れたから

その選択は後悔してない。

ただの憧れを自分のキャリアに

—国際関係にいる時から、いつからテーマパークで働きたいって思うようになったんですか。

それっていうと中学くらいの時から言ってた。その時はただただ好きだから第一志望はテーマパークがいいなって思って。高校になるとその非日常空間を仕事にするってどんなんだろうなって、ちょっと解像度が上がっていった。大学一年生からUSJでバイトしてその時に実際にキャストとして働くってこういうことなんやって知った。けどその時に社員として働いてみたいっていう気持ちが生まれた。じゃあ社員として働くってなったら国際関係の知識が生きる。元々の夢、ちっちゃい頃の夢を解像度を上げてって、最終的に運よく、ご縁があつて会社から内定もらって今入って、かつ自分がしたい仕事をさせてもらっているみたいな感じかな。なんで割と綺麗にいった。

—ずっと夢があるのが憧れます。目標があるって大事なんやなって思いました。

目標があるのが大事って言われるけど、必ずしもそうじゃないと思ってる。目標ない人生の方が普通やと思う。私は思いが強すぎて。家族がテーマパーク好きやし、それがベース。幼い頃からの原体験としてあるからそれそこに引きずられたって感じ。逆にそうじゃないんやったら目の前にあることを一生懸命やる。そのなかで自分の力が発揮できる部分ってどこやるなって考える。そうしたら必要とされる分野はここやな、ここの分野で働くためにはあのスキルがいるなっていう感じでキャリアを作っていく。逆算するために今一生懸命やるっていうのが、目の

前の勉強やるとかが大事になってくるかな。

学校内で走り抜けた日々

―課外活動とか何かされてましたか。

高校は吹部と生徒会で予定が埋まるでしょ。そのあと、ピアノのレッスンがあったのと、全国の高校文化祭みたいな。四七年に一回回ってくるイベントに参加した。かつ、高校三年生の時に滋賀で開催されるから高校二年生の段階から前年のところを勉強しにいった。だから、高校二年生三年生とかは生徒会と吹奏楽をやりながら高文祭の準備をした。あと、八日市高校と河瀬高校とうちが吹奏楽部門のメイン担当みたいなものだから何回か行ってた

―本当に忙しいですね。外に活動しにいく時間とかありましたか。

なかった。学内にずっといた。体育祭の運営も生徒会がやるから。体育祭も文化祭も生徒会長が喋るし、入学式もちろん卒業式も答辞も送辞もやるし、基本ずっと学校いた。そういう課外活動をするのが大事っていう文化がなかったかもしれない。今でいう課外活動と俺の思う課外活動は定義が違っている。俺は授業外を課外活動やと思ってるから部活も課外活動。多分今の課外活動は学校外。郊外活動みたいなことが重視されてる感じ。

―そうですね。GLに入るにはボランティアとか活動をしないといけないんです。

俺はあんまり立命の枠から出たかっていうとあんまり。立命でできる理想を全部フル活用するみたいなの。

―確かに、文化祭実行委員、体育祭実行員、生徒会長。すごいところ全部やられてますもんね。

しかも部活も副部長やってるからあんまり休めない。そもそも昔は吹奏楽部週六。昔の方が部活の時間長かったんじゃないかな。

―何時までやられてたんですか。普段平日とかだと。

平日は四時から六時半とか。学校の門限が七時半。だから実質七時半。強化部とかなかったから一律全部活ご自由にどうぞみたいな。自由やったよそういう意味では。でも校則は厳しかった。校内でスマホつけたらあかんとか。

―それは今もあります。

中学生とか持ってきたらあかんかったし。今は持ってくる文化が当たり前やけど、昔は普通にI C O C Aもカードやし。それこそ大阪から通ってるのになんかあったらどうするんって親も心配してたけど当時はずっと変わらんかった。

―校則めっちゃ厳しいですね。

鬼厳しい。逆に校則を緩くできるってことはある程度生徒の質が保たれてるってことやから。生徒会が頑張ってたみたいな話は聞いた。―前の生徒会長の人がすごい頑張ってくれてはった感じです。

それがあるべき生徒会長の姿よ。俺そういう活動全然してなかった。俺はひたすら挨拶をする。

―挨拶運動みたいな感じですか。

どちらかというと全校集会でスピーチをする。全校集会月一回くらいない？ アッセンブリーアワー。

―ないと思います。

毎月、中学は中学で高校は高校で毎月全生徒集めて何か話すっていうのがあったのね。それは別に生徒会長が喋るやつじゃなくて本来は先生がやるやつ。そこで俺が生徒会長になってスピーチをした。別に何かを

大きく変えたいっていう訳ではなかったんだけど、ちょっとでも「立守いて良かった」って思える人を増やしたい。逆に仲間がいじめられてるとかそういう人たちも前向きに、「自分はああゆうことやったいこう」「気にせずにやったいこう」と思えるような雰囲気を作りたいと思ったから、月一回アッセンブリーアワーの時に自分でスピーチをして、全校生徒に伝えたり、逆に先生にこうしてほしいってお願いすることもあった。

―それは先生に要求を言っただけで先生とディベートみたいな感じになるんですか？

みたいなこともごく稀にあった。生徒に言うんやったらみたいなのを先生に言っただけで、「こういうことをやってほしくて」みたいな感じで具体的に伝えて納得してもらおう。やっぱり真面目な生徒がバカを見る学校は嫌やん。だから、全校生徒集まった時とか講演会とか聞いている時にうるさかったら生徒会長が生徒に対して注意する。半分先生みたいな役割をしつつ、半分は生徒の立場に立って学校の雰囲気をよくする。生徒会長がああ言ってるから頑張ろっかなみたいなことを思ってもらえるように。あと、気持ちが上がってもらえるようなポスターとか貼ったりとかしてた。

―それは自分で作られたんですか。

自分で作るって言う選択肢もあったけどその時は立命が出してるポスターでいい名言を使ってるポスターがあって、大学に電話して取り寄せて、期間ごとに一年間の中でこの時期は体育祭がある時期やからこう言うこと伝えたい。この時期はこう言うメッセージにしたいからこのポスターを使いたい。そんな感じでポスターの言葉に合わせたスピーチを毎月してた。

―それは生徒会長がするとは決まってるんですか
決まってる。なんで最初は生徒会長がやって、たまに副会長とか。副会長にはめっちゃ優秀な子がなってくれてたから。

苦しい道を選ぶ意味

今の段階で難しいからって言うって選択肢を捨てるのはなんか基準が違う気がする。それはやりたいことは明確に決まってる、絶対こう言うことを成し遂げたいって言うものがあるんやったらそれでいいんやけど。ただその知的好奇心が特定の分野にしか向かないのか、幅広い学びに興味がないのかって言うのは一個分岐点になる。特定の分野にそこまで興味がないんやったら母集団のレベルが高い方がいいとは思う。嫌でもやんなきゃいけないって思いながらやるのはあんまり良くない。逆にそこで頑張らなくて社会人なってあそこで頑張るとけばよかったって思う後悔の方が良くないから。自分はそう言う生き方をしたくない。避けたい。

―私も避けたいです、

なら、今頑張る。数年間苦しいかもしれないけど頑張る方が適切な判断。苦しい方を選ぶっていう人生の選択を重ねる方がいい。

【感想】

今回のインタビューを通して、先輩が高校時代から自分の興味を大切に、挑戦を重ねてきた姿勢に強く心を動かされました。特に、プロジェクトエクシオンマッピングを自ら企画・制作した経験や、「目標がなくて、今できることを一生懸命やる」という言葉が印象に残りました。進路や将来に迷うこともありますが、先輩のように今の学びや経験を大切に



右 聞き手：大塚美月

左 語り手：馬場俊亮さん

にし、行動することで道が開けるのだと感じました。